

# クロカジキ 大西洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



**管理・関係機関**

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

**最近一年間の動き**

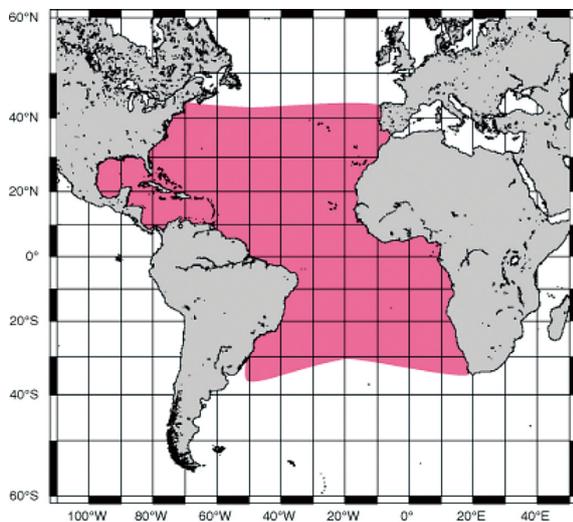
2012 年に ICCAT により、新しい資源管理方策が策定された。

**生物学的特性**

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：2～4 歳
- 産卵期・産卵場：夏～秋、熱帯・亜熱帯域
- 索餌期・索餌場：夏、温帯域
- 食性：魚類（特にサバ類）、頭足類
- 捕食者：調査中

**利用・用途**

刺身、切り身（ステーキ）、ソテー



クロカジキ（大西洋）の分布

**漁業の特徴**

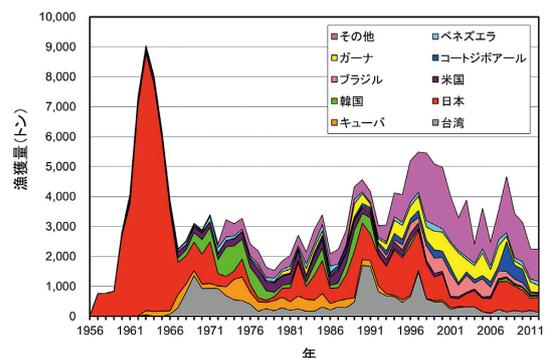
本種が主対象の漁業は米国、ベネズエラ、バハマ、ブラジル等のスポーツフィッシングとカリブ海諸国やアフリカ西岸諸国の沿岸零細漁業である。従来漁獲量の大部分は台湾、日本、ブラジル等のまぐろ類等が対象のはえ縄の混獲によって得られているが、近年は沿岸零細漁業の漁獲も増加している。

**漁業資源の動向**

本種の漁獲量は 1979～1998 年に増加傾向を示した後、2000 年代中頃まで減少したが、近年再び増加傾向を示している。1990 年代中頃～2000 年代中頃には便宜置籍船によるはえ縄の漁獲等が増加した。また、沿岸零細漁業等が大きく漁獲をのばし、1990 年代下旬からはガーナ・コートジボアールといった沿岸零細漁業国がまとまった漁獲を揚げる等、近年は新しい漁業国による漁獲が増えている。日本の漁獲量は、2007 年以降増加し 2008 年に 1,000 トンを上回ったが、その後減少しつつも 2012 年は 508 トンを記録し、国別漁獲量では 1 位となった。

**資源状態**

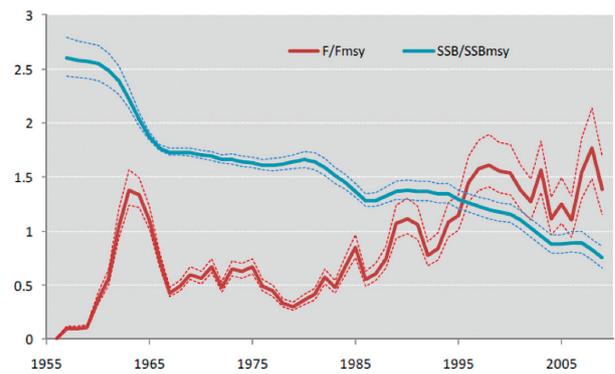
資源評価は 2011 年 4 月に ICCAT 資源評価会合によって試みられた。本会合では、主に各国のはえ縄データを用いて様々な資源量指数の推定が試みられたが、近年漁獲量が増加している沿岸零細漁業のデータはほとんど資源量指数の推定に使うことができなかった。今後は、本種を多く漁獲している全ての漁業データを使った資源量指数の推定が必要である。推定された資源量指数は、1960～1975 年に急激に減少した後長期安定傾向を見せ、1990 年代中頃より再び減少傾向を示した。資源解析は初めて統合モデル (Stock Synthesis 3) を用いて行われ、その結果は資源が依然として乱獲状態にあることを示していたが、ICCAT 科学委員会はこの結果は信頼性が低いために、2013 年の資源評価及び管理勧告作成には参照していない。そのため、ICCAT 科学委員会は 2011 年に報告された資源量指数のトレンドから推して、資源水準は 2000 年に推定した MSY レベルより低く、漁獲死亡係数の水準は MSY レベルよりも高いであろうとしている。



本種の国別漁獲量（データ：ICCAT 2013）2012 年は暫定値

### 管理方策

ICCAT は (2011 年の資源解析結果を参照しつつも) 主として 2000 ~ 2002 年に策定された「はえ縄及び巻き網漁の 1999 年と 1996 年の漁獲量の大きい方の 50% 以下に抑える」という勧告の実施を徹底するために、本資源に対して 2013 ~ 2015 年間の TAC を 2,000 トンに定めた。この間の日本の割り当て漁獲量は年間 390 トンである。また、これまで義務づけられていた、生存放流を可能な限り実施することが勧告された。同時に、今回資源解析・評価の実施に当たって問題となった生存放流及び死亡投棄個体の推定方法について、各国からの報告の提出とそれらの内容の吟味も併せて勧告された。また、クロカジキは、はえ縄やまき網といった規模の大きな漁業の他に、スポーツフィッシングや沿岸漁業によっても漁獲されているので、これらに関しては別途資源保護のための規制とモニタリング態勢の強化が勧告されている。



Stock Synthesis 3 による資源解析結果 (ICCAT 2011)  
 青実線は産卵親魚量の MSY 水準比 (SSB/SSB<sub>MSY</sub>)、青破線はその±10%信頼限界を示し、赤実線は漁獲死亡係数の MSY 水準比 (F/F<sub>MSY</sub>)、赤破線はその±10%信頼限界を示している。

### 資源評価まとめ

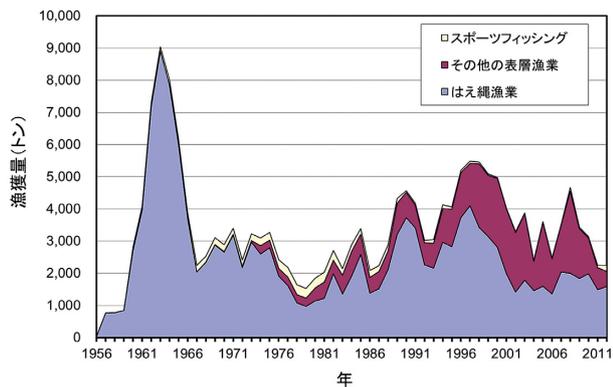
- 資源評価は ICCAT において実施。
- 資源は低位、減少。

### クロカジキ (大西洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2,200 ~ 4,700 トン 平均: 3,150 トン (2008 ~ 2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	400 ~ 1,030 トン 平均: 700 トン (2008 ~ 2012 年)

### 資源管理方策まとめ

- 資源水準を MSY レベルに回復させる。
- 2013 ~ 2015 年の TAC を 2,000 トンとする。
- 生きて漁獲された個体は、できるだけ放流後の生存率が高くなるように放流する。



本種の漁法別の漁獲量 (データ: ICCAT 2013) 2012 年は暫定値